

# DAIDO CAMPUS

DAIDO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

1998.10.9 No.26

編集・発行 大同工業大学社会交流センター

〒457-8530 名古屋市南区瀬戸町10-3

TEL 052-612-6193

No.26



木曽駒ゼミナーハウス

## CONTENTS

### 特集

#### 本学の特色、产学連携

##### ■ TOPICS

学外の目で本学を見る  
インターネットによる授業サポート 他

##### ■ オープンキャンパス開催

##### ■ 平成11年度 入試について

##### ■ 研究室を訪ねて③

##### ■ アンテナ

第20回アメリカ短期留学 他

##### ■ キャンパスライフ

自転車で地球温暖化防止訴え 他

##### ■ 桃介を訪ねて(2)

##### ■ INFORMATION

大同工大キャンパス  
1998 OCTOBER 10

# 本学の特色、产学連携 ～全国で10位にランクされる～

産学連携、産学協同は本学的一大特色です。朝日新聞の調査（大学朝日オリジナル徹底評価99ランキング）では社会人の受入れに関しては、本学は名古屋工業大学と並んで全国の大学で第10位にランクされました。今号では、その産学連携について特集します。

産学連携といっても、内容はバラエティに富んでいます。それぞれについて簡単に現状を紹介します。

## 【本学における産学連携のメニュー】

### ●産業人の教育

- 企業派遣学生の受入れ（大学院、学部）
- 本学独自の委託生制度
- 大学院授業の開放

### ●本学学生の産業界での研修

- 本格的インターンシップの学外卒研指導制度
- 全国的にも先端をゆく連携大学院制度
- 短期インターンシップ（試行段階）

### ●研究の産学連携

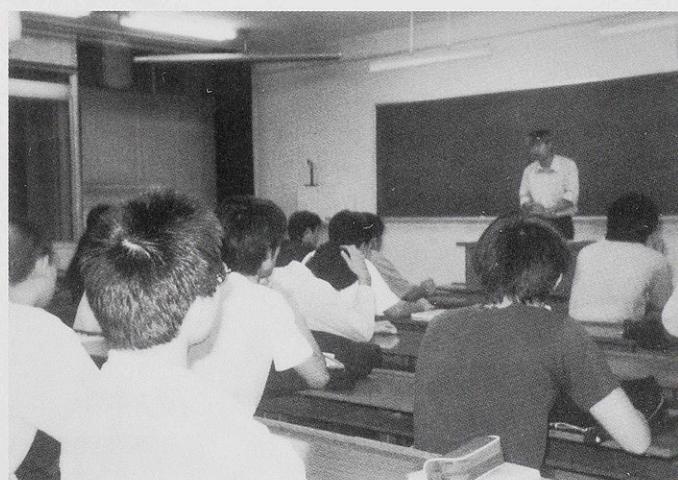
- 共同研究、受託研究、奨学寄付金

## 企業派遣学生

社員の能力開発に熱意のある企業の中には、社員を本学に派遣してくるところがあります。

最近10年間で、学部では、11社から委託生を含めて延べ165人が派遣されてきています。また大学院では、9年間で8社から延べ35人が派遣されています。これを年平均でみると、毎年、16人強が学部で、約4人が大学院で学んでいることになります。

最近は、バブル経済の崩壊によるリストラの進行などで一時より企業派遣学生が減少しています。しかし、過去にも景気変動等によって派遣数は増減を繰り返しているので、企業が落ち着着くに従つて再び社員学生の派遣が増加することが期待できます。今後は、大学院への派遣が増え、また学部では近隣企業から夜間主コースを利用した派遣も期待されます。



夜間主コースの授業

### \*委託生

本学独自の制度で、企業が派遣するフルタイムの科目等履修生である。期間は派遣する企業によって異なるが、1年ないし2年間、工学部の学生として通常学生と同じように学修する。開学以来、委託生として500人に近い社会人が修了し、現在職場の中核として活躍している。

最近10年間	
学部学生派遣(委託学生)	55人
大学院学生としての派遣	35人
学部への委託生派遣	110人
合 計	200人

注) 1. 人数は各学年の合計人数

2. 大学院は平成2年の開設後9年間の数字

## 派遣企業の声

株式会社 ナガラ  
代表取締役社長

早瀬 實氏



当社は一昨年に初めて社員1人を貴大学院の修士課程に派遣し、今年の春に無事修了しました。続いて4月から2人目を派遣しています。特に新しい分野に必要な人材の育成には大学院でのハイレベルの勉強は大変有効だと思います。私共の会社は名古屋で金型を設計製作している会社です。金型は自動車や家電製品及び生活物資のあらゆる部品を量産する道具です。その物作りの元になる金型を設計製作するには、現在有る技術より一步先に技術開発を進めなければいけません。日本の金型は、現在、世界No.1の技術力

があると認められ、国内生産の60%が海外、特にアメリカやヨーロッパの先進諸国へ輸出され、第2の生産資源とされております。当社は金型と共に社員が各国の大手メーカーへ出向き活躍しております。この様な前向きの環境ですから、社員を大学院に派遣して高度な知識とモラルを持った人の育成をしたり、大学と連携して協同研究を行い世界最高レベルにある金型作りをこれからの方々に伝えて行くよう努力して行こうと思っています。

## 委託生の声

大同特殊鋼株式会社  
荒金雅和さん



私は会社から派遣されて大学に来ています。会社での仕事は機械設備の建設から稼働までの現場監督をしていました。業務上、客先の管理・監督者と会話する機会が多く、その度ごとに知識的な差を感じていました。幸い私の会社には1年間の留学制度があったので、実感していた隙間をうめるために大同工業への留学を希望しました。大学では、仕事に関連している機械工学科を選びました。四月の授業始めでは見慣れない専門用語や計算式等が黒板に埋め尽くされた時には戸

惑いを感じることもありました。工業高校卒業後8年間のハンディがありましたが、楽しく受講できたのではないかと前期振り返っています。大学での生活は社会人の時と比べて自由になる時間が多くあり、私生活の面でも疎遠になっていた友人達と交流を取り戻すことができて心の充実も図ることができました。私にとって留学中に学んだことは今後の仕事をしていく上で役立つことが沢山あります。後期も悔いのない充実した学生生活を送りたいと考えています。

## 委託修了生の声

株式会社 リケン  
柏崎管理部業務課長  
68M 柴野徳雄氏



委託修了して27年余になります。当時を振り返って先ず、頭に浮かんでくることは、2年委託の修了間際の11月頃に体調を崩して3ヶ月間程、病気療養の為に長期欠席を余儀なくされたことです。社内試験に合格して名古屋の大同工業大学に入学するために、毎晩、夜遅くまで勉強したことが一体何だったのか。委託生最後の年でありもう数ヶ月間で修了すると云う時に病気になるとは。そこで、何とか会社にもう1年勉強させて頂きたい旨をお願いし、1年間延長して頂き3年間

大学でお世話になりました。幸い委託生のカリキュラムは、自由に科目を選択することが出来たので、電気工学科の科目を履修したり、上位年次の科目を履修したりしました。勉強と同時に、大いに遊び幅広い友人が出来たことが印象に残っています。不幸中の幸いと言いますが1年間他の人達より大学生活を送ることは、人間としての幅が出来たことでしょうか。そして、大学での経験は、自信と誇りと云いますか、委託修了生だとう頑張りが芽生えた事だったと思います。

## 学生が工学の現場で学ぶ ~DITから企業へ~

実戦の場で学ぶことは学生にとって大変意味の深いことです。  
本学においては、3つの形態でそれを経験することができます。

### 《学外卒研指導》

本学は開学以来この制度を続けており、最近では学外から相当注目されています。今年の6月に通産省が「インターンシップハンドブック」という本を発刊しましたが、その中で本学の学外卒研指導が代表事例として信州大学、法政大学、豊田工業大学など他の8大学とともに詳しく紹介されています。年度によって変動はありますが、機械工学科、電気工学科、応用電子工学科の卒研生の1割ほどの学生が学外の卒研指導を受けています。最近インターンシップが注目されていますが、本学の学外卒研指導は10ヶ月近くにわたり職場に席をおき、職場の一員となって指導を受けるので、究極のインターンシップといえます。

### 平成10年度学外卒業研究学生数

派遣先	機械	電気	応電	計
名古屋市工業研究所	3	10	4	17
通産省名古屋工業技術研究所	2	2	5	9
愛知県工業技術センター		2		2
(財)ファインセラミックスセンター			3	3
大同特殊鋼株式会社	5		6	11
合計	10	14	18	42

### 《連携大学院制度》

前号で詳しく紹介した連携大学院制度は、本学大学院の特色となっている制度です。本学の修士課程の学生が連携先の研究機関で研究指導を受けるもので、学部の学外卒研指導と似ています

が、正式の協定を締結することや大学院客員教授として採用した研究者から指導を受けるなど、より本格的な制度になっています。通産省工業技術院と連携している大学院は、私立大学では本学を含めて4大学しかないことから見て、特色ある制度といえるでしょう。

現在の提携先は、通産省名古屋工業技術院、財團法人ファインセラミックスセンター、大同特殊鋼(株)技術開発研究所、新日本製鐵(株)名古屋技術研究部です。

## 《インターンシップ》

これはまだ正式の教育制度となっていません。昨年から全国的に話題となっている企業等における就業体験です。通産省が推進する試験的なプロジェクトに参加して、今までに9名の大学院生、学部生がいろいろな企業で2~4週間の就業体験を行い、貴重な

経験を積みました。また、この他にも担当教員の指導で、企業での実習体験をしている学生もいるようです。



名古屋市工業研究所

## 学外卒業研究 指導者の声

大同特殊鋼株式会社  
技術開発研究所

五十川幸宏 氏



大同工大の学生の卒論の指導を担当させていただいて、15年ほど過ぎました。最初の数年は、会社における研究テーマとかけ離れた卒論のテーマを計画して、提出の時期になると大いに悩んだものです。指導者がこんな状態ですから学生はもっと大変ではなかったでしょうか。今でも申し訳ない事をしたと思っております。

自分の研究テーマに沿って長期的な計画を立案し、研究の中ではカバーできない基礎的かつ新規性のあるテーマを卒業研究とするようになったのは指導を始めて5年ほどでした。自分自身がかなりの見通しをもって学生の指導に当たらないと、指導を受ける側も不安な様子が判ります。そこで、卒論テーマの実行にあたっては、次年度に行うテーマの検討も加えながら進める方法を取りました。学生にとってみれば自分の持ち分以外に多くの予備実験を担当させられたわけですから大変でした。しかし、マンツーマンの指導を行いましたので学生にとってそれなりのメリットはあったのではないかと思います。

卒論の成果は日本塑性加工学会の春と秋の学会

に必ず報告することを決めていました。その発表件数はこれまでに20件以上となります。これらの一冊をまとめて私の学位論文としました。その論文は大同工大の卒論学生の成果をまとめたものだと思っております。改めてこれまでの学生の皆さんには感謝したいと思います。したがって、私が企業から大同工大に派遣されて学位を取得したことは全く自然の成り行きだと思っております。

最近はインターンシップにて学生が企業で積極的に研修を受ける機会が増加しました。期間が最大で1ヶ月と短いため、卒論研究ほどじっくりと勉強しながらの研究は望めませんが、これまでに培ったノウハウを活かして、短期間に必ず成果のあがるテーマをリストアップして実行しています。インターンシップでは、学生が問題意識を有していますので指導は比較的楽です。私も含めて同僚は学生を自分の助手として大いに勉強させながら、結果を“わくわくしながら待つ”と言う楽しみを与えようと心がけています。

## 学外卒業研究 指導者の声

名古屋市工業研究所  
電子部情報技術課  
竹尾 隆氏



早いもので、私たちの光エレクトロニクス研究室で大同工業大学の学生の皆さんのが卒業研究を行うようになってから20年近くが経ちます。その間、当研究室で卒業研究に携わった学生の数は、正確には把握していませんが、おそらく80人くらいになるでしょうか。名古屋市工業研究所は主として中小企業の技術的開発をお手伝いするための市立の機関であり、各研究室には共同研究先の企業から技術者が派遣されてるケースも多く見られます。光エレ研で卒業研究をされた学生の大部分も民間企業の技術者と絶えず議論を繰り返

しながら研究を進めたものです。こうしたことから、卒業研究生は研究分野における知識は無論ですが、それ以外に物事を自主的にとらえる社会人としての姿勢も学ばれたのではないでしょうか。最近は年齢の差のせいか途絶えていますが、以前には夏休みや冬休みなどにテニス合宿やスキーにとみんなで一緒に出掛けたときのことも懐かしく思い出されます。私共としましては、今後とも卒業研究という場を通して大学と企業との橋渡しをお手伝いできればと願っています。

## 学外卒業研究を体験した 卒業生の声

クロダイ工業株式会社  
商品開発部 部長

67M 高津正秋 氏



大学で学ぶ総決算とも云える卒業研究を学内ではなく敢えて学外に求めたことが、会社に就職してから大いに役立ったかをお話したい。名古屋市工業研究所の野村研究室で、記憶が確かであれば、テーマは「チッ化処理による内部応力の挙動」であったと思います。工具鋼を窒素で表面処理をすると寿命が長くなる。ところが焼入れをするために焼き割れを起こす。その寿命と内部応力を調べるのが研究テーマであったと思います。今から27年前のこと、その影響を調べると言っ

ても容易に出来るものでは無く、工具鋼の組織を調べることは表面を研磨する作業があるわけで、来る日も来る日も硬い鋼を磨くのが大変なことです。一ヶ月、二ヶ月掛けてもなかなか合格が出ない。妥協が許されない。常に厳密でなくてはいけない。この厳しさを要求するのが社会常識です。物の考え方、姿勢の在り方など、他では学ぶ事が出来ない貴重な体験が出来たのは学外卒業研究ならではと思っています。

## インターンシップ 参加者の声



98MM 田中昭徳さん

私は、会社の雰囲気を味わい、研究内容を体験することで将来、何かの役に立つと思い、インターンシップに参加しました。また、多くある会社の中から、私は工作機械に大変興味があるので、ヤマザキマザック株式会社を選びました。ヤマザキマザックでは、まだ担当者の方も、やったことがない研究を、私に研究テーマとして与えていただき、少し危ない実験などもありましたが、担当者の方や他の社員の方に大変お世話になり、楽しく実習を終えることができました。実習期間は二週間

で、あっという間に終わってしまいましたが、会社で得られた知識や経験は必ず将来の役に立つと思いました。

将来は、「工作機械関係の道へ進もう」と、思っていましたが、果たしてこの道でよいのだろうかのだろうかと、疑問を感じていました。しかし、インターンシップに参加したこと、その疑問が消え、やはり工作機械関係の道へ進もうと、再認識することができました。

インターンシップに参加して、本当に良かったと思いました。

## 大企業、中堅企業と研究で产学連携

研究面での产学連携としては、「共同研究」と「受託研究」及び「奨学寄付金」の3つの形態があります。

「共同研究」は、企業と本学の両方が研究を分担して行うものです。「受託研究」とは、企業が研究に必要な経費をつけて研究テーマを本学に委託するものです。共に、相手企業にとってメリットがあるだけでなく、本学としても、社会を支える産業の発展に直接貢献できると共に、本学の教員が現実の課題に触ることができ、研究活動に刺激を受けることができます。また、学生が共同研究や受託研究に参加できれば、大変いい経験になります。

昨年度は12社から26件の共同研究・受託研究を受けました。委託した企業には日立製作所、中部電力、新日鐵、大同特殊鋼などの一流企業と共に、技術開発に熱心な中堅、中小企業も入っています。

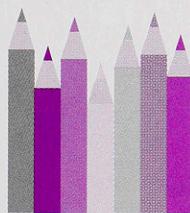
研究の連携とはやや違いますが、本学の研究に対する支援として企業や団体から本学に対して「奨学寄付金」を寄付していただくこともあります。昨年は、日本気象協会など6つの企業・団体から本学の6人の先生に合計約600万円の寄付をいただきました。いずれも本学教員の研究活動を高く評価して、その支援を申し出られたものです。

### 本年度の受託研究・奨学寄付金も順調 ～9月末までに28件～

本年度に入ってからの企業等からの受託研究や奨学寄付金の実績は次表のよう

になっています。年度途中ですが、すでに受付件数が28件2000万円に達し、昨年度の総計を超えました。産業界からの本学に対する期待が数字に表れています。

氏名	所属	研究課題、寄付の対象分野	委託者・寄付者	受託金額・寄付金額
細井祐三教授 土田豊教授	機械	Fe-Cr-Al合金のスケール密着性	製造業	30万円
小森和武助教授 杉浦正勝教授	機械	多バース形材圧延の汎用シミュレータの開発 モアレ干渉法による応力・歪み解析への画像処理の応用(接合界面の弾性応力・ひずみ特性)	製造業	100
西堀賢司教授	機械	超音波モーターとPSDを用いた高機能ロボットハンドの開発	製造業	50
大嶋和彦助教授	機械	圧電素子を利用したセルフ・センシング・グリッパの開発に関する研究	製造業	80
中島浩衛教授 中島浩衛教授	機械	圧延材の反りと蛇行に関する基礎研究 鉄鋼材料等の熱間加工における組織予測と制御	製造業	30
土田 豊教授	機械	奨学寄付金(中高温強度に及ぼす微量元素の影響に関する基礎的研究に対し)	製造業	80
土田 豊教授	機械	奨学寄付金(調質高張力鋼の結晶粒及び焼入れ性に及ぼす製造プロセスの影響の検討に対し)	製造業	50
井上孝司講師 細井祐三教授	機械	軸受鋼の被硝性におよぼす炭化物の影響	製造業	50
高藤新三郎講師 桑山 忠教授	建設	Ti合金の疲労強度に及ぼすショットピーニングの影響 アスファルト合材用の骨材から生じる錆の防止に関する研究(継続)	製造業	70
光田 恵講師	建設	奨学寄付金(コンロでの調理における必要換気量を測定する真気実験に対し)	製造業	200
山本俊彦教授	建設	奨学寄付金(場所打ちコンクリート杭の耐震性能評価に関する研究に対し)	建設業	200
太田福男教授	建設	電気炉還元酸化スラグの高強度コンクリート用骨材としての適用性に関する研究	製造業	100
大東憲二助教授 大東憲二助教授	建設	奨学寄付金	建設業	30
高田和之教授 藤田順治教授	電気	奨学寄付金(宅地造成に伴う水収支の変化に関する研究に対し)	コンサルタント会社	50
坂 貴 教授 堀尾吉巳教授	応電	奨学寄付金 電子波動場による結晶表面リトグラフの基礎的研究	製造業	70
和田隆夫教授	応電	高温用半導体デバイス研究	製造業	20
山森哲夫技術補 小野宗憲教授	材研	奨学寄付金	製造業	100
小野宗憲教授	材研	奨学寄付金(プレス加工技能の分野の研究に対し)	製造業	18
小野宗憲教授	材研	複合鍛造の荷重・変形・欠陥の予測	製造業	30
神保睦子助教授 神保睦子助教授	材研	奨学寄付金	研究推進機構	60
神保睦子助教授	材研	奨学寄付金(スピンドル材料の開発に対し)	研究推進機構	30
		スピンドルGMRの高感度化	製造業	150



# 大学院でも社会人に対し夜間等の学修を導入

～来春から「教育方法の特例」～

本学では社会人が仕事をしながら大学で学べるように、いろいろな制度の改革を図っています。皆さんご承知のように、今春から学部における昼夜開講制を導入し、すでに多くの社会人が仕事についてままで夜間主コースで学んでいます。

最近では大学院での学修を希望する企業や社会人が増加していることから、本年度は大学院における教育方法の弾力化を検討しました。その結果、社会人学生に対して来春からいろいろ教育方法の特例を導入することを決めました。

教育方法の弾力化、すなわち「教育方法の特例」の内容は次のようなものです。

1. 仕事を持つ社会人が仕事に支障なく大学院で学べるように、授業や研究指導の一部を夜間(18:00~21:10)や休業期間等(夏季休業期間や土曜日等)に行うことができます。この場合には、入学試験の出願の時に予定

の指導教員と相談のうえ、授業の時間や研究計画を作成します。

2. 勤務している会社等でも大学院の研究をすることができます。

これは、勤務する企業等に研究に関する優れた施設や設備があり、それを使用した方が研究の成果が上がると指導教員が認めた場合です。

3. 修士論文に代え、特定の研究課題に関する研究成果(例えば、リサーチペーパー)により修士の学位を取得することもできます。

なお、この教育方法の弾力化は大学院の各専攻ごとに導入を検討することとなっており、来年度は機械工学専攻と電気・電子工学専攻で導入することになりました。

多くの社会人がこの制度を活用して、本学の大学院で高度な知識の修得や研究能力の向上に努めていただきたいものです。

# 新たに新日本製鐵と連携大学院

7月号の大同工大キャンパスで詳しく紹介したとおり、本学は通産省の名古屋工業技術研究所、財団法人ファインセラミックスセンター及び大同特殊鋼(株)技術開発研究所と連携大学院を提携していますが、9月から新たに新日本製鐵株式会社技術開発本部名古屋技術研究部と連携大学院の提携をしました。大学院の研究環境がさらに充実し、幅を広げることになります。

なお、この提携に伴い、新たに同研究部主任研究員の徳納一成氏が大学院客員教授になりました。



## 「大学の教育革命」に向けて天野郁夫氏の講演会開催



大学評価委員会は、学外の第三者による評価を推進するために、学外の識者による講演会の開催を計画することとしました。その第一回の講演会として、文部省大学審議会の委員であります天野郁夫先生(現 国立学校財務

センター・東京大学名誉教授)をお招きすることができ、7月22日に本学図書館大会議室に於いて開催されました。

「これからの中大教育=大学の教育革命へ」と題し、21世紀の大学像・教育改革の現実・大学審議会「中間報告」・進む環境変化・個性化の時代へ等について講演されました。当日は多くの教員・事務職員の聴講を得て、質疑応答もあり、今後の本学の改革の上で多くの示唆を得た貴重な講演会となりました。  
(学事室)

## 学外の目で本学を見る 大学基準協会による相互評価、来年度に受審を決定

「大学基準協会」とは、我が国の国公私立大学が大学としての質的向上を目的として作っている団体です。その正会員となるためには、厳重な審査を受けなければならず、現在では全国の大学の約半数が正会員として認められています。本学は平成6年度に正会員として加盟を認められました。協会は、正会員大学が大学として一層向上充実することを目指して、一昨年から「相互評価」を開始しました。これは、希望する会員大学を他大学の委員で作る評価チームが点検し評価するものです。会員大学相互が評価するので「相互評価」と呼んでいます。大学が維持会員校にふさわしい条件を備えているかどうか、また大学としてさまざまな側面でどのような努力をしているか等が評価がされます。

本学は、この「相互評価」を来年度に受けることが教授会で決定しました。「相互評

価」を受けるためには数百ページに及ぶ膨大な報告書を作成し提出しなくてはなりません。この作業を行うため、学長を委員長とする「相互評価報告書策定委員会」を設置し全学をあげて取り組む態勢が作られました。協会のスタッフによる説明会を開催して教職員が「相互評価」についての理解を深めるなど、報告書作成に向けてさまざまな活動を開始しました。

今回この「相互評価」を受けるのは、大学基準協会から良い評価を受けることが目的なのではありません。本学がこれまでに行ってきたこと、今行っていること、これから行いたいこと又行わなければならないことについて、大学の特色化・魅力化を含めて、第三者による客観的な評価を受け、それを力にして本学が前に進むことが目的です。

(学事室)

# 土木工学専攻の 「インターネットによる授業サポートの取り組み」



表:インターネットによる授業サポートの機能と概要(土木工学専攻)

主な機能	機能の概要
1) Department News	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土木工学専攻の最新ニュースを掲示しています。この欄では、大学院生と4年生の就職活動状況を速報しています。就職の内定状況がリアルタイムでグラフ表示されます。</li> </ul>
2) README	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本システムの総合利用マニュアルです(印刷して下さい)。</li> </ul>
3) 行事予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学と土木工学専攻の年間行事予定をまとめています。カレンダーを利用して、月別の行事を閲覧できます。</li> </ul>
4) カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム編成方針、科目一覧表およびシラバスをまとめています。科目名を検索して、シラバスを閲覧できます。この項目のみ、土木工学専攻のホームページ "http://www.daido-it.ac.jp/~doboku/" を通じて、学外からアクセス可能です。</li> </ul>
5) 時間割表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土木工学専攻学生の前後期の時間割を閲覧できます。</li> </ul>
6) 授業サポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業サポートの有効な使い方を説明しています。</li> </ul>
7) 揭示板	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生／教務／就職関係の連絡事項を掲示しています。掲示内容に対する問い合わせが可能です。教員が掲示内容に添付した授業の資料(Word、Excel、プログラム、画像・音声等のファイル)を表示・実行したり、レポート解答をダウンロードできます。</li> </ul>
8) 質問用紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門基礎情報系と専門科目の授業内容について、担当教員を指名して、質問を送ることができます。回答は次の9)に表示されます。</li> </ul>
9) Q & A一覧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての質問と回答の結果をまとめています。過去の質問／回答内容に対して、再質問したり討議することもできます。教員が回答にファイルを添付したときは、それらを実行したりダウンロードすることができます。</li> </ul>
10) オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研究室を直接訪問して、授業内容について質問・相談できるオフィスアワーの予定時間表があります。上記8)の質問用紙で質問内容をうまく伝えられないときに利用して下さい。</li> </ul>
11) AAセミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AAセミナーのページです。研究室の配置図があり、教員の連絡先(E-Mailアドレス他)をまとめています。学生生活全般に関する相談に利用して下さい。</li> </ul>
12) アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年度2月に卒業研究の研究室配属(3年生)のアンケート調査を行います。配属希望の状況をリアルタイムで確認できます(期間限定です)。</li> </ul>

(注)詳細は土木工学専攻のホームページ "http://www.daido-it.ac.jp/~doboku/" に紹介しています。

土木工学専攻では、学内ネットワーク網が整備されて以来、情報処理教育のソフト面でのよりよい環境づくりに取り組んできました。その一つとして、ネットワーク上でデータベースを構築することにより、学生の皆さんのが専門科目の授業内容を理解していくときに簡単に利用でき、かつ、教員との連絡を密にできるような授業サポートの方法を模索してきました。ここでは、平成10年4月から正式公開している「インターネットによる授業サポート」のサービスについて紹介します(下の写真参照)。

授業サポートの主な機能は、左表に示すとおりです。これらの機能は教員が運用・管理している各種のデータベースと連動しており、常に最新データが表示されるようになっています。

学生の皆さんには、専門科目の授業内容が理解できなかったり、疑問を感じたときに、気軽に利用できる便利なツールとして役立ててほしいと思います。コンピューターに触れる機会を増やして、1日1回は授業サポートを利用して下さい。

この授業サポートは、白水地区と図書館のネットワークに繋がっているコンピューターから利用可能ですが、学外からのアクセスについては、今後要望が多くれば実現したいと考えています。

(酒造敏廣 建設工学科教授)

Daido Institute of Technology  
**Academic Support**  
on Internet for Students in Dept. of Civil Engineering  
since Oct. 1997

Date	Department News of Civil Engineering
98/06/02	【平成10年度の就職活動】 平成10年度4年生と大学院生の就職活動は4月からスタートしています。例年に比べて非常に厳しい状況です。1~3年生の皆さんの状況を知ってもらうために、現在の内定状況を連報します。
97/10/15	【インターネットによる授業サポート開始】 左欄の白抜き文字の部分をマウスでクリックすると、その中の文字をコピーできます。[README]だけ授業サポートをクリックして、説明をよく読んで下さい。MicrosoftのIE3.02以外のブラウザではうまく動きません。
00 9 16 1	

Revised 22 December 1997

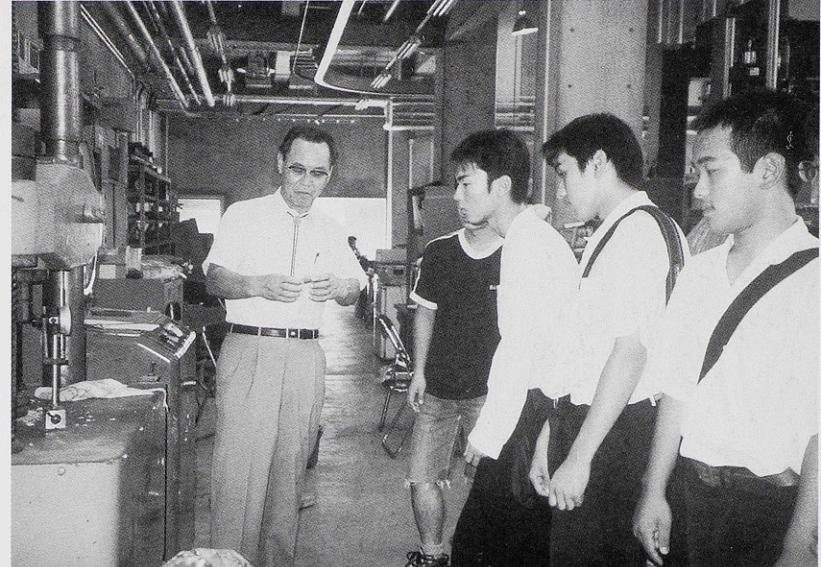
土木工学専攻による授業サポートのホームページ

"http://godos/defaults.asp"



# 本年度第1回 オープンキャンパス 開催さる

今や恒例となった、オープンキャンパスの本年度第1回目が、去る8月4日(火)開催されました。オープンキャンパスは、高校生に大学を知つてもらうには最も良い機会であり、各大学とも重要な大学行事として力をいれており、最近新聞でも取り上げられるようになりました。本学の場合、第1回目は受験生のみならず、高校生にとにかく大学をよく知つてもらう主旨で行うこと、第2回目(10月24日(土))は推薦系入試の志願者を主眼に入試ガイダンスに力点を置き、そして第3回目(11月28日(土))は、試験系入試の志願者を対象に、入試問題の傾向と対策セミナーを行う主旨で企画されております。さて、8月4日当日、猛暑にも拘わらず、高校生330名、高校の先生22名の参加があり、盛況裡に終わりました。即ち、学科毎で用意されたミニ講義や模擬実験、情報処理センターでのインターネット体験、各相談コーナー(授業、学生生活、就職状況)、図書館その他のキャンパス見学等、自由に見学・体験してもらい又、先生方には、理事長・学



長から大学の概況や教育方針等について説明をおこないました。参加した高校生からアンケートをとりましたが、そのほとんどは、来て良かった、大学の雰囲気が良くわかった、と好意的な印象を持ったようです。それが、昨年、一昨年とも、参加者の70~80%が志願に結びつく結果に現れています。当日、ご協力頂いた教職員、模擬実験や高校生に直接対応頂いた学生諸君の皆さんに厚く御礼申し上げます。第2回目のオープンキャンパスについても、よろしくご協力をお願いします。なお、高校生のアンケート結果の一部を紹介しておきます。

## 平成10年8月4日実施キャンパス見学会アンケート自由記載意見まとめ

### 1. 大同工業大学について

- とてもきれいで過ごしやすく勉強できそう(38)
- 自分の学びたいことをしっかり勉強できそうだと思った(20)
- 工業大学だから暗いと思ったが、とても明るい(12)
- おもしろそうな・楽しそうな大学だ(7)
- 講義担当の先生や案内役の学生さんが優しくて、明るくよいイメージを持った(6)
- 自分のイメージどおりの大学だった(5)
- 教育環境がよい(5)
- 都会にあるからうるさいと思っていたが、静かな学校だ(4)
- 高校の生活と違って、すごくフリーな感じがした(2)
- 施設が充実していても中身がよくなればだめだ。大同は外見は少し地味であるが、中身は最高だと思う。(2)
- 少し古い(2)
- キャンパスの大きさや、施設の多さから、この学校の授業内容はきっと内容の濃い、

充実しているものだろうと感じた。(2)

- 自分のイメージとはちょっと違った(2)
- 技術を身につけるにはよい大学だ(2)
- 発展性のある大学だと思った(2)

勉強したいと思いました。きてよかったです。

### 2. オープンキャンパスに参加した感想

- オープンキャンパスにきてよかった(11)
- 僕も是非この大学に入りたいと思った(11)
- 今まで以上に大学がよくわかり楽しみになった(4)
- この大学にはいるためには、もっと勉強しなければいけないと思った(3)
- 大同工大を以前よりよく知ることができ、良い雰囲気であることがわかった(2)
- 少ない時間だったが、いい経験ができた。もっとみたかった(2)
- 勉強が難しそう
- 初めて大学をみたので圧倒されたが、少しわくわくしてきた
- 大学に何となく行きたいと思っていたが、話を聞いたり実験をみたりして、やっぱり

### 3. 模擬実験について

- 実験などをみて、自分もやってみたくなった(6)
- 時代のニーズにあった研究活動をしていくを感じた(3)
- インターネットがてきてよかった(2)
- 模擬実験がおもしろかった(2)
- 自分が興味を持てることがあった(2)
- ソーラーカーがつくりたくなった(2)
- インターネットがやけに遅かった
- ロボットの動作実験など、興味深いことが細かくわかりやすく説明してもらえた
- いろんな実験室があり、入ったかった
- もっと身近な私たちの生活の中にあるような、わかりやすい題材にしてほしい。いったい何のためにそんなことをするのかわからない。
- 金属の写真を撮らせてもらって感動した
- 建築のCADがやってみたかった



#### 4.ミニ講義について

- とてもわかりやすくよかった(15)
- 講義が難しかった(6)
- 音色の秘密は、普段音色とは何だろうと考えることなどないので、話を聞いて音色について少しはあるが理解することができた。(3)
- 講義中部屋が臭かった、また暑かった(3)
- 土木工学のミニ講義を聴き、自分の知らない分野があり、ますます興味がでてきた。是非続きを知りたい
- 講義の時間がもう少し長くてもよかった
- 土木工学を聞き、こういう事をするんだなと思った。おもしろそう
- 建築学専攻の住まいの空気が病気をまねくを聞いて、よい勉強になった
- 講義を聞いて自分のやりたいことができそうな気がした
- 機械工学科の方針と教育システムがよくわかった
- 芸大の建築との違いがわからなかった

#### 5.教員の接し方について

- とても優しく親切である(18)
- 教授が明るく楽しかった(7)
- とてもいい先生たちで、詳しく教えてくれた(7)
- 先生がニュースなどでていて有名人ぽかった(2)
- 先生たちの態度がよい

#### 6.学生の接し方について

- とても親切である(10)
- 先輩の案内が丁寧だった(7)
- 先輩たちの暖かさが伝わってきた(6)
- 先輩たちがいい人たちで、うれしかった(5)
- 学生のやる気がすごかった(2)
- 熱気を感じた(2)
- 親しみがわいた

- クーラーがきいていなかった(4)
- 校舎が古い(4)
- 新しいキャンパスについて、完成した物がみてみたい(3)
- 校舎がきたない(3)
- 図書館が広くてよかった(3)
- 勉強しやすそうな設備が多い(2)
- トイレがきれいだった(2)
- 学食の量・質ともによい

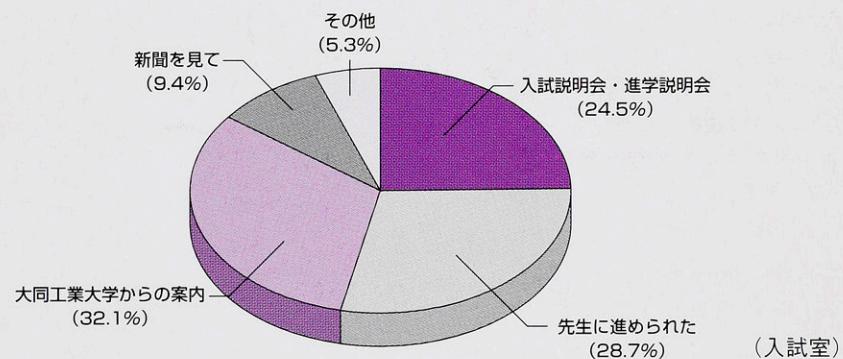
#### 7.大学の施設・設備について

- 設備・施設が充実している(52)
- 食堂のご飯がおいしい(8)
- 教室が多くて、どこにどの教室があったかわからなくなったり(6)
- 新キャンパスがいい(6)
- 外見は少し汚いが、中はきれいだ(5)

#### 8.その他

- 部活のことももっと知りたかった(6)
- 女性が少ない(2)
- 校内に時計を見あたらなかった
- 3年次から1対1で学べるときいて、学力がつくと思った

#### 今回のオープンキャンパスを何で知りましたか



## 平成11年度 入学試験について

**●平成11年度入学試験の変更点**  
昨年度(平成10年度)入試においては、少子化の影響、国公立大学等の易化傾向、不況に伴う地元大学志向や併願受験校の減少等により、本学志願者も減少を余儀なくされました。

平成11年度入試においては、高校生がより受験し易いように配慮し、主に次のような変更・改善を行いました。

#### ■募集定員

学 部	学 科・専 攻	募 集 定 員	
		昼間主コース	夜間主コース
工 学 部	機 械 工 学 科	195名	40名
	電 気 工 学 科	130名	20名
	建設工学科	土木工学専攻	20名
		建築学専攻	20名
	応用電子工学科	110名	20名
	合 計	595名	120名

#### [昼間主コース]

- 1、工業高校推薦入試を2日間実施  
昨年受験者の大幅増に伴い、受験生の面接待時間が長時間にわたった問題点を改善するため、2日間実施します。  
なお、受験日は本学にて決定します。
- 2、各推薦入試出願時提出するレポートの課題は簡潔に、しかも、書きやすいように、キーワードを参考に掲げました。
- 3、学力入試に、M(マークセンス)方式入試を新設  
大学入試センター試験の普及で、高校生にすっかり定着の感があるマークシートによる解答方式です。しかも15%の募集枠を設定し、前期入試の5日後に実施します。
- 4、前期入試を2日間とし、両日とも全学科対象に実施します。

従って、試験日自由選択制であり、両日で異なる学科を受験することも、又両日とも同一学科を受験することも可能です。

- 5、第2志望について  
M(マークセンス)方式入試及び後期入試は、夜間主コースの前期(M方式)入試及び後期入試に対応しており、それぞれ、夜間主の同一学科に限り、第2志望として認められます。
- 6、理科の出題範囲に、「物理II」、「化学II」を追加高校での履修状況を考慮し、本学が工学部であることも併せ考え、範囲を拡大しました。

### [夜間主コース]

- 1、推薦入試においては、基礎学力テストを廃止し、面接と調査書で判定することとしました。
- 2、前期(M方式)入試を新設
- 3、前期(M方式)入試及び後期入試においては、地方試験会場を設けました。
- 4、前期(M方式)入試及び後期入試は、昼間主コースのM(マークセンス)方式入試及び後期入試に対応しており、それぞれ、昼間主コースの同一学科に限り、第2志望として認められます。

## 大学院前期入試実施する

大学院修士課程入学試験(前期募集)が、さる9月18日(金)実施され、本学の学部生58名が受験、54名(機械工学専攻21名、電気電子工学専攻21名、建設工学専攻12名)が合格しました。理工系分野では、大学院進学が決して珍しくなくなってきたありますが、本学においても、年々増加傾向にあり、現4年次生では1割が進学を希望しています。科学技術の進展に伴い、大学院生に対する社会的ニーズは一層高まり、この傾向は今後とも続くものと思われます。なお、後期募集は、次の通り行われますので、希望者は是非チャレンジして下さい。

出願期間	試験日	合否発表
博士後期課程 H11.2.9(火)～17(水)	2.25(木)	3.5(金)
修士課程 H11.2.9(火)～17(水)	2.26(金)	3.5(金)

## ■入学試験日程・会場

### (1)昼間主コース

入試種別	出願期間	試験日	合否発表日	試験会場
女子学生推薦入学試験	H 10.11.1(日) ～11.7(土)	H 10.11.14(土)	H 10.11.19(木)	本学
工業高校推薦入学試験	H 10.11.1(日) ～11.7(土)	H 10.11.14(土) 又は11.15(日)	H 10.11.19(木)	本学
推薦入学試験	H 10.11.16(月) ～11.25(水)	H 10.12.5(土)*1	H 10.12.11(金)	本学・静岡・松本・津・金沢・大阪・高松
		H 10.12.7(月)*1		本学
前期入学試験	H 11.1.8(金) ～1.22(金)	H 11.2.6(土) H 11.2.7(日)*2	H 11.2.13(土)	本学・東京・静岡・松本・津・金沢・大阪・岡山
M方式入学試験	H 11.1.8(金) ～1.22(金)	H 11.2.12(金)	H 11.2.19(金)	本学・静岡・津・金沢
大学入試センター試験利用入学試験	H 11.1.18(月) ～2.3(水)	センター試験 H 11.1.16(土) H 11.1.17(日)	H 11.2.19(金)	
後期入学試験	H 11.2.24(水) ～3.6(土)	H 11.3.13(土)	H 11.3.18(木)	本学・静岡・津・金沢・大阪・岡山

(注) \* 1=本学試験会場は、受験生が試験日を自由選択できる。

\* 2=受験生は、両日共受験することができる。また試験日を自由選択することもできる。

☆女子学生推薦入学試験と工業高校推薦入学試験との、併願はできない。

☆出願は郵送とし、出願期間最終日の消印有効。

### (1)夜間主コース

入試種別	出願期間	試験日	合否発表日	試験会場
推薦入学試験	H 10.11.24(火) ～11.28(土)	H 10.12.12(土)	H 10.12.18(金)	本学
前期社会人推薦入学試験	H 10.11.24(火) ～11.28(土)	H 10.12.12(土)	H 10.12.18(金)	本学
前期(M方式)入学試験	H 11.1.8(金) ～1.22(金)	H 11.2.12(金)	H 11.2.19(金)	本学・静岡・津・金沢
後期社会人推薦入学試験	H 11.2.8(月) ～2.19(金)	H 11.2.28(日)	H 11.3.5(金)	本学
後期入学試験	H 11.2.24(水) ～3.6(土)	H 11.3.13(土)	H 11.3.18(木)	本学・静岡・津・金沢・大阪・岡山

(注) ☆出願は郵送とし、出願期間最終日の消印有効。

## 編入学試験実施する

本学編入学試験が、さる9月19日(土)実施されました。短期大学や高等専門学校から12名が受験し、6名(機械工学科3名、電気工学科1名、建設工学科土木工学専攻1名、応用電子工学科1名)が合格し、本学3年次生への編入が認められました。  
(入試室)

## 本学教員著書紹介

糸見和信 機械工学科教授

### ◆実用・モータ制御システム

#### 設計マニュアル

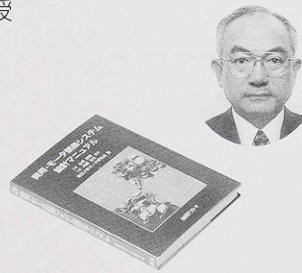
監修:糸見和信・内藤治夫

著者:東芝小型モータ研究会

出版社:総合電子リサーチ

発行日:1998年2月

B 5版 350ページ



著者は、およそ十年前に「制御用モータ技術活用マニュアル」を刊行し、次いで「実用モータ設計マニュアル」そして、これらの姉妹編の最後の著書として刊行したものです。内容は、「これからモータ電源としての制御装置の設計を志す方々」のために解説したもので、K W程度までのモータ制御装置の「基礎」と「制御手法」を、豊富な図と例題をもとに解説しています。分かり易さと実用性を重視した設計の専門書です。

近藤 巍 機械工学科講師



### ◆実習テクニカルイラストレーション

著者:近藤 巍 出版社:三共出版

発行日:1979年11月 A 5版 154ページ

従来の三面図による製図法(第2次元的)を立体的(第3次元的)に変化するための技法を種々解説したもので、パーソカタログや取り扱い説明書を作成するために役立つ本です。



### ◆機械製図用語集

著者:近藤 巍 出版社:パワー社

発行日:1978年3月 A 6版 167ページ

初めて製図を学ぶ人の為に製図および設計の専門用語を解説したもので、今まで製図関係では発行されていない製図用語を辞書にしたもの。

### ◆実用簡略製図の進め方

著者:近藤 巍 出版社:総合技術センター

発行日:1984年3月 B 5版 102ページ

機械や装置を製作するために用いられる図面の内容を極限まで簡略する図法を解説したもので、図面のコストをいかに削減するかを考える場合には必携のテキストです。

### 今注目を集める新進の翻訳家

～橋本博美研究室～



#### 日本人で ただひとりの招待

アメリカ西海岸、カナダとの国境に近い海辺にポート・エンジェルスという小さな港町がある。この町で今年の夏、現代アメリカを代表する小説家であり詩人であるレイモンド・カーヴァーの没後10年を記念する追悼会と朗読会が開催された。レイモンド・カーヴァーは1980年代にアメリカでかなり人気のあった作家で、その作品は映画にもなった。日本では作家の村上春樹氏の翻訳により彼の全ての作品を味わうことができる。

橋本博美先生はカーヴァーの理解者・研究者として日本からただひとり招待された。朗読会には地元の人々やマスコミ関係者らが多数集まり、カーヴァーの作品の朗読やエピソードの紹介などで3時間半にも及ぶ熱気溢れるものとなった。ここで橋本先生は冒頭に紹介を受け、ケルトの神話に題材をとったカーヴァーを讃える自作の物語詩を朗読した。先生はこの詩の中にカーヴァーのすべての詩集のタイトルを織り込むというトリックを加えて、立錐の余地もなく集まった会場の人々から共感の拍手を受けた。

#### 注目をあびた処女出版 「くろいかべ」

橋本先生は昨年、アメリカの児童文学（絵本）「くろいかべ」を翻訳した。ベトナム戦争の戦没者と行方不明者計約6万人の名を刻んだ米国ワシントン市にある実在の黒い石の壁をめぐる物語である。これが第1回英米出版社絵本翻訳コンクールで最優秀賞を獲得した。審査では「語尾に至るまでのデリケートな配慮と、短い文章の中に十分なイメージの熟成がある。」と高い評価を受けた。新世研

社から絵本として出版されたが、発売直後から新聞各社の注目を浴びることになった。朝日新聞、中日新聞が相次いでトピックとして取り上げ、読売新聞は本格的な書評を掲載した。

#### 挫折体験、 翻訳との出会い

橋本先生は大学に入った時、しばらくはやるべきことが見つからなくて挫折したような心理状態であったといふ。このままでいいか、何かに打ち込みたいと思っていた時に、友人に誘われて翻訳の勉強をはじめ、翻訳の世界に親しんでいったそうである。しかし、必ずしも順調に行った訳ではないようだ。翻訳を志してから、本の表紙に名前が出るまでに18年間かかった。あくまで黒子として日の目をみることがない下訳の仕事に嫌気がさして何度も止めようと思ったことがあった。「くろいかべ」の出版は、そういう自分への励ましになつたといふ。先生は、10年や15年で結果が出ないからといってあきらめてはいけないと、今では自分に言いきかせるようにしている。

翻訳で作者の言っていることを正しく読者に伝えようとすると、日本語の難しさをあらためて感じた。英語だけでなく日本語の研究も大切で、大学のゼミの先生から名著として名高い谷崎潤一郎と三島由紀夫の「文章読本」を熟読玩味するように奨められた。（ちなみに、村上春樹氏は「よく翻訳は医療に似ているといわれる。『手術は成功しました。患者は死にました』というジョークがあるが、それと同じように、訳はきっちりと正しいのだが、小説としての勢いが大きく殺されている、ということがたまにある。」と書いている。）



研究論文としては、翻訳による作品の変容、特に作家が翻訳した場合の作家同士の相互作用を取り上げたりしてきた。最近は主にレイモンド・カーヴァーの詩に関する研究に力を入れている。

#### 理工系学生と文学

授業でアメリカ現代文学作品（翻訳本）を一冊買って感想文を書く課題を出した。学生たちは不満顔ながらも本屋で初めて外国文学のコーナーに立って適当な本を選び、読んでテーマを自分で見つけレポートする体験をした。その学生たちの中には作品に感動して詩心を触発され、詩を作ってきた学生もいた。先生としては予期せぬことだけに大変うれしかった。

文学は文系・理系を問わず、生涯にわたって人生や生活を豊かにしてくれるものであり、そんな文学のすばらしさや楽しさを感受性の強いこの時期に知ってもらうことが、先生の強い希望である。

取材のために研究室を訪れた時に、カーヴァーの未亡人であり、詩人で小説家のテス・ギャラガーから電子メールが入った。今度彼女の小説を翻訳する話が進んでいるそうだ。翻訳家としての橋本先生は忙しくなりそうである。

橋本先生は今年の4月に本学に着任した早々に、停車中に追突されて首に窮屈なコルセットをはめる羽目になった。馴れない環境に加えて肉的な苦痛も加わり、辛い期間を過ごすことになったが、その後に一般教養の教員はもとより専門の教員や事務の職員に優しくいたわりの言葉をかけられ、大変慰められ、本学の暖かさを感じたそうである。



## 第20回アメリカ短期留学報告



引率教員 大東憲二  
(建設工学科土木工学専攻  
助教授)

8月21日(金)から9月12日(土)までの23日間、アメリカ短期留学へ行ってきました。参加者は、96A002青木航、96A041河田朋孝、96A093茂木洋子、96C081古川安世、96M079栗木宣幸、97E045久米洋平、97M032大崎五十鈴、98D074鈴村誠の8名の学生と引率者である私の合計9名でした。

21日(金)の夕方名古屋空港を出発し、ポートランド空港に同日の午前10時15分に到着しました。その後、オレゴン大学のあるユージーン市へ向けてバスで出発し、約2時間後にオレ



オレゴン大学の学生と真剣に英会話を勉強する学生たち

ゴン大学の寮に到着しました。先に到着しておられたパワーズ先生も出迎えて下さいました。それから12日間の研修が始まりました。到着したのが金曜日だったので、本格的な授業は月曜日からということになり、オレゴン大学が用意してくれたスケジュールに従って、土曜日はキャンパスツアー、市内見学、日曜日は乗馬、バーべキュー、スポーツで過ごしました。

### U of O の学生と共に研修

24日(月)から始まった授業は、コンピュータを利用した電子メールとインターネットの使用方法、英会話とアメリカ文化についてでした。英会話の授業では、本学の学生2~3名にオレゴン大学の学生が1人ずつ付いて、自己紹介をしたり、大学のキャンパス内や周辺の商店街を歩きながら会話の練習をしていました。今年は、午後の自由時間が多かったので、学生の殆どが自転車を購入して、市内のいろいろな所を散策していました。私も1日だけレンタ

サイクルを利用して、パワーズ先生の案内で学生と一緒にサイクリングを楽しみました。

29日(土)は、細井副学長がこちらに到着される予定だったので、私は寮に残り、学生とインストラクターでハイキングに出かけました。この日の夕食は、学生と細井副学長の懇親会を企画していたので、学生の帰りを待っていましたが、帰って来る予定時刻を1時間15分過ぎて、ようやく帰ってきました。インストラクターが道を間違えてしまったそうです。これも楽しい思い出になったことでしょう。

30日(日)は、学生たちのホームステイの日でした。当初、一泊の予定でしたが日帰りのホームステイとなりました。しかし、学生たちは、それぞれのホストファミリー先で、日本とは違うアメリカ家庭の雰囲気を味わってきたようでした。

その間、細井副学長と私は、パワーズ先生とオレゴン大学のベギー・デイム先生の案内でカスケード山脈のSahali Fallまで行ってきました。とても、素晴らしい滝でした。

31日(月)は、オレゴン大学と大同工業大学の提携20周年記念パーティーが市内のレストランで催されました。このパーティーは、両校の共催という形にしました。

9月1日次の午後は、オレゴン大学研修の修了式でした。式では、8名の学生が、英語で今回の研修の感想を述べました。この10日間で、学生たちはかなり成長したように見えました。

### OSU でカレッジフットボール観戦

翌2日(水)はオレゴン州立大学のあるコバリス市へ移動しました。途中、オレゴン海岸の砂浜で遊んだり、岩の上に寝そべっているアシカを見たりしました。オレゴン州立大学には、6日までの5日間滞在しました。滞在中には、オレゴン州立大学工学部のキャンパスツアーがあり、シャチのケイコで有名なオレゴンコースト水族館、有名ブランドのアウトレット商品が沢山あるファクトリー・アウトレットな



オレゴン大学のアクティビティ・インストラクターと学生たち  
(現在オレゴン大学留学中の本学卒業生 松尾奈々さんも参加)

どへも行きました。また、オレゴン州立大学とネバダ大学のフットボールの試合も観戦しました。オレゴン州立大学では、本学から海外留学中の服部洋兒先生にお世話をになりました。

3日(木)は、オレゴン州立大学と大同工業大学の提携15周年記念パーティーがコバリス市内のレストランで催されました。

### 美しいカナダを満喫

6日(日)は、早朝に出発し、ポートランド空港からカナダのカルガリー空港へ向かいました。この日からカナダの観光旅行が始まりました。カナダの観光旅行は、これまで20回を数えるアメリカ短期留学の中でも久しぶりの企画です。まず、カナディアンロッキー観光の拠点となるバンフ市に2泊し、美しい湖と氷河を見学しました。学生たちと私は、日本人観光客が多いのに驚きました。次に、カルガリー空港からピクトリア空港まで飛び、ピクトリア市で2泊、バンクーバー市で1泊しました。ピクトリア市はとても美しい港町で、バンクーバー市は近代的な都市という印象を持ちました。カナダの観光旅行は楽しかったけれど、来年は旅行会社のパック観光旅行とは一味違った語学研修が活かせる旅行を企画した方が、学生たちは喜ぶと思います。

11日(金)にバンクーバー空港を出発し12日(土)午後、無事名古屋空港に着きました。



オレゴン州立大学工学部長ロナルド・アダムス先生から両校の提携15周年記念品を受け取る細井副学長

## 研究報告会開催

9月7日(月)の午後、9号館9403講義室で第5回研究報告会が開催され、教員・学生と企業の研究者・技術者70名ほどの人が参加しました。



報告会は、本学の客員教授である名古屋大学工学研究科の小川明教授による移動体通信の新しい技術についての講演で始まりました。引き続いて本学の教員による研究報告が行われましたが、熱心な質問の応酬が繰り返されました。

### ■報告テーマ

- 客員教授 小川 明教授  
移動体通信の新しい技術
- 機械工学科 和田 均教授  
摩擦圧接継手に対する衝撃引張強度の評価に関する研究
- 材料科学技術研究所 神保睦子助教授  
磁性人工格子の巨大磁気抵抗効果
- 電気工学科 藤田順治教授  
プラズマによる微粒子の加熱機構
- 一般教養 服部文彦助教授  
マキャベリのデータベース化に向けて
- 建設工学科 笠嶋 泰教授  
nLDK型日本住居における寝室の場所性
- 機械工学科 細井祐三教授  
クロム節約型ステンレス鋼の合金設計  
(社会交流センター)

## ～クラブ活動の環境整備進む～ 新学生クラブ棟の建設始まる

滝春にあるクラブハウスとは別に、新たにクラブ棟が建設されることになり、10月から工事が始まります。(来年2月完成予定)

名港管理組合から長期借用した滝春校舎の西に隣接する土地(約6000m<sup>2</sup>)の北端部に、鉄骨2階建て、床面積約500m<sup>2</sup>のクラブ室棟が建ちます。8つの部室と2つのミーティング室が設置されます。

部室には自動車部等モーター系の3つの部が現クラブハウスから移室する他に、現在白水校舎にクラブ室をもつクラブ及び待機中のクラブが入ることになります。

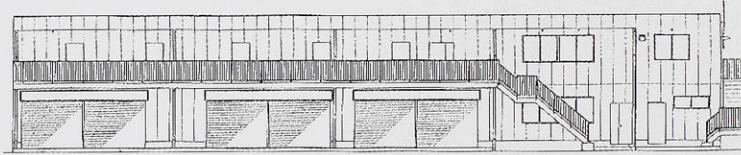
ミーティング・ルームには空調設備が設置されます。宿泊も可能ですから合宿もできるようになります。

これで専用体育館の建設とあわせて、クラブ活動の環境は大幅に改善されます。各部の一層の活発な活動が期待されます。

1階…自動車部室・レーシングカート部室・モーターサイクルスポーツクラブ

室・ミーティング室・トイレ・大学専用車庫

2階…部室5室・ミーティング室



(学生室)

## 第27回 柴田「七夕祭り」 大学祭実行委員会らが参加

柴田町恒例の「七夕祭り」(柴田商店街振興組合主催)、8月4日から6日の3日間にわたって、ハートフル白水駐車場などで開催され、本学からも大学祭実行委員会、アルバム委員会、吹奏楽団が協力しました。学生達は大同舞台を作り、大喜利・組体操・ダンス・吹奏楽団の演奏などを企画し、柴田町の皆さんと一緒に祭り気分を盛り上げました。

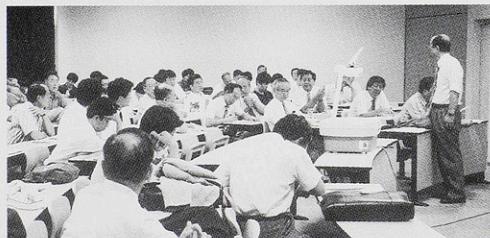
### さらなる発展を

大学祭実行委員会

一日、5時間余の短い時間でしたが、我々実行委員のメンバーは“やりたい事”が全てやれて満足でした。多くのお客様に見守られ、我々も一生懸命になれて、祭りに参加している人全員が一つになれたような気がした。大同工大生と柴田町の皆さんとの親睦も年々深まりつつあるけれど、さらなる発展のために貢献して行きたい。



## 学術講演 電磁気異常から地震予知はできるか



電気学会東海支部主催・本学社会交流センター共催の学生および一般社会人対象「学術講演会」が7月8日本学9号館に一般社会人41名、学生教職員を含め110余名の聴講者を得て開催された。講演は地震予知という難しい課題を取り組んでいる電気学会「地震に伴う電磁現象」調査専門委員会が昨年春、地震学会を含む地球物理関係学会で、初めて地震研究のセッションが開かれ盛況であったのを踏まえ、電気学会東海支部では学術講演会演題として企画した。

講演者名：堀井憲爾学長(大同工業大学)、上田誠也氏(理化学研究所)、早川正士氏(電気通信大学)、長尾年恭氏(東海大学)、畠雅恭氏(愛知県立大学)、榎本祐嗣氏(機械技術研究所)  
(社会交流センター)



## 自転車で地球温暖化防止訴え

「自転車きやらばん98」に  
98C 小川幹生さんが参加

全国の大学生でつくる「自転車きやらばん98」(実行委員長関西学院大西哲史さん)、に建設工学科土木工学専攻 小川幹生さんが40人の仲間と自転車に乗って地球温暖化防止を訴えた。途中参加など合わせると約200人が活動に加わり、7月下旬から、北海道→長野→沖縄→広島など全国を6コースに分け自転車で走破し、8月29日から31日まで、大阪府堺市で交流会「自転車ギャザリング・イン堺」に集い、ツアーコースを世界に発信しました。また、その活動ぶりは地元中日新聞社を始め地方紙の徳島新聞社など各新聞社から紹介されました。その小川さんから体験記が寄せられました。

小さなペダルは地球を回す

～ちやりキャラ輝～

98C 小川幹生さん

僕はこの夏自転車キャラバン(以下:ちやりキャラ)に参加し、全国の人に対し環境について呼びかけてきた。



さて、ちやりキャラとはなんぞや?と思われる方、やはり自転車で全国を走りながら環境について訴えようとするアクションです。昨年の8月、「地球温暖化防止京都会議」のPRを目的とし、多くの人に環境について興味を持つてもらおうと考え、第1回目が行われた。今年は「自転車キャラバン98」と名称を改め、地球温暖化防止・アイドリングストップとライフスタイルの改善を呼びかけながら一ヶ月以上に渡り走り抜いた。

僕は九州・四国ルートを担当し、8月1日宮崎を出発した。この日宮崎国際大の学生と一緒に街頭PRをするなど最高のスタートがされた。旅を続けている時、人との出会いがとても大きな励ましとなった。「頑張って」と声をかけてくれる人、旅人との出会い頭のハンドサイン、初めて出会った僕達に無料で宿を提供してくれた人など。でも楽しいことばかりじゃないのがちやりキャラだ。峠という大自然の辛さを何度も味わった。何度も荷物を捨てようかと、「もういい!ここから落っこちてもいい」と思ったことか。毎日毎日自転車をこいだ。地球の大きさを実感した。元気で仲間達と会えることを願い、ゴールを目指して走り続けた。



街頭PRや行政への表敬訪問を通して思ったことは、やる気を見せれば必ず耳を傾けてくれるということ。歌を歌って、ビラを配る。みんな見て見ぬ振りで通り過ぎて行く。ちやりキャラの相手は一般社会人だ。その人達の背中を一押ししてあげること、最初の一歩を踏み出させて上げること。そのためには僕達青年の大好きなパワーが必要となる。「1人の100%より、100人の1%」をキーワードに、みんなの心に残るアクションをと。人生山道の法則。今はまだ登りの状態でつづくかもしれない。でも着実にみんなの目がこっちに向いていることを今回のちやりキャラで感じた。



小川さんを大きく報じる新聞記事

## 中山智江さん(土木工学専攻2年)ロータリークラブで感銘を与える

ロータリークラブとは社会奉仕を理念とする世界的な組織で、愛知県だけでも26クラブ、約6400名の会員が活動しています。会員の職業はあらゆる分野に属しており、会社経営者、医師、弁護士、学長などが主なメンバーです。

私の所属する名古屋東南ロータリークラブでは、若い世代のボランティア活動に対する考え方を聞こうということになり、9月3日の例会で小学校時代からボランティア体験を持つ本学の中山智江さん(土木工学専攻2年)がスピーチを行いました。



中山さんは小学校時代には無人駅の清掃や老人福祉施設の訪問を行い、中学に入つてからも母と一緒に福祉施設をよく訪問しまし

た。高校の時には所属するアマチュア劇団で耳の聞こえない少女の役をやり、またそれがきっかけとなって手話や点字の勉強したりもしました。盲導犬との出会いもありました。また福祉施設のバザーを手伝ったり、赤十字の救急法の資格に挑戦もしました。

そんな豊富なボランティア体験の持ち主である中山さんに、ある時ちょっとした事件が起きました。それは、障害のある子供と同じ駅で電車に乘ろうとした時のことです。中山さんは、その子供にすぐ手を貸そうとして、一緒にいた人に止められました。その子はひとりで歩いて改札口を通り、ホームを歩いて、ひとりで電車に乗ることができたのです。その時中山さんは、何でも障害者だから手を貸せばいいと思っている自分、ボランティアを「する側」と「される側」を区別している自分、少しだが優位に立っているように思っている自分に気がつきました。

3年前の夏の真夜中のことです。降り続いた雨のために増水した近くの川の堤防が決壊し、中山さんの家にはどんどん水が迫ってきました。家には、退院して間もない母と中山さん

の2人しかいませんでした。どうしていいのか判らないでうろうろしていた時、近所の人々や親戚の人が駆けつけ、荷物を二階に上げてくれました。その後も、なかなか水は引かなかつたのですが、多くの人に激励の声を掛けられました。どんな些細な一言でも心から嬉しかったし、励みになりました。避難所での炊き出しや水が引いた後の家の周囲の土砂の取り除き、食事の差し入れなど、沢山の人の援助を受けました。

この体験から、自分が健常者だからといって常にボランティアする側にいるとは限らない、ボランティアできる側にいるのか、それとも助けてほしい側にいるのか、それは本当に紙一重だと感じたのです。

中山さんは、ボランティアは本当に小さなことでもいいと言います。また、自分の心にゆとりがない時はボランティアをしない方がいいと語りました。

彼女の清新な感性に、聞き入る全員が深い感銘を受け、大きな拍手を送りました。

(理事長 横井信司)

# クラブ活動報告

## アーチェリー部

・6/21 東海学生アーチェリー  
フィールド選手権大会

97 C 野田宏和 フィールド 26位  
96 M 北原大和 フィールド 35位  
97 E 佐藤洋介 フィールド 47位  
96 M 駒谷武久 フィールド 49位  
97 C 大阪洋子 フィールド 26位

## 剣道部

・6/7 第41回東海学生剣道  
新人選手権大会

97 M 大村晃太 個人戦 1回戦敗退  
98 M 石川典幸 個人戦 1回戦敗退  
98 E 兼松佳弘 個人戦 1回戦敗退  
98 C 大崎敦久 個人戦 3回戦敗退

## 自動車部

## 個人優勝、団体でも準優勝に輝く

・6/28

### 全中部学生ジムカーナ選手権大会

団体 大同工大 2位  
95 M 佐藤雅則 個人 1位  
95 E 緒方崇之 個人 5位  
96 M 本多正幸 個人 15位

## 将棋部

・7/5 第52回アマ名人戦愛知県大会

97 E 山口忠敬 C級 3勝2敗  
98 E 鬼頭達志 C級 2勝3敗

## ダンス部

・6/7 第18回中部日本学生競技  
ダンス選手権大会ラテン戦

96 M 大林里恵 2次予選出場

## バトミントン部

・6/22～26 第46回愛知  
学生バドミントン選手権大会

96 A 間 大資 単4回戦 ベスト32

97 A 宮田 亮 単4回戦 ベスト32

97 E 荒井輝也・97 A 松林大樹

複3回戦 ベスト32

## モーターサイクルスポーツ部

### 大健闘 入賞に輝く

・6/27～28 '98出光カップ

キャンパス・オフロード・モーター  
サイクル・ミーティング西日本大会

96 M 小林・95 C 平野・96 M 坪井

大学対抗リレー 5位入賞

96 M 小林大輔

エキスパートC 3時間耐久レース 6位入賞

95 C 平野航一

エキスパートC 3時間耐久レース 8位

94 A 萩原信也

エキスパートC 3時間耐久レース 21位

96 M 坪井克己

ビギナー1時間耐久レース 13位

98 D 渡辺貴央

ビギナー1時間耐久レース 25位

## クラブ紹介

### 「アルバム 委員会」

委員長

野田典男さん

私たちアルバム委員会は、簡単に説明すると卒業アルバムの企画・撮影や編集・販売です。まず撮影については、大学祭や体育大会、レガッタ大会などの行事を一年を通じて写真に収めます。昨年からビデオの撮影も始めました。又、撮影だけでなくそれらの行事にも積極的に参加もします。他のクラブ活動

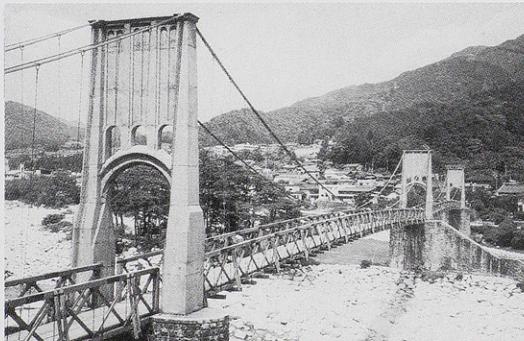
をしつつ、アルバム委員会の仕事を手伝ってもらいうることができます。つまり

アルバム委員会の仕事だけに縛られる必要などなく、イベントやクラブを通じて学生生活を有意義なものにしてもらいたいのです。そして、一年の締めくくりとして編集をします。自分たちが今まで撮ってきた写真をもう一度見直し、アルバムに載せる最もいい写真を選び、一番いいと思われる構図に収めていくのです。自分たちの感性やこだわりで選んだ写真が

買ってくれた人の思い出として残ります。



アルバム委員「富士登山」 5合目より



## 桃介を訪ねて(2)

# 重要文化財、桃介橋

～我が国土木技術の粹を集めた長大橋～

「電力王」とも呼ばれる福沢桃介は、木曽川の電源開発につとめたことで有名であるが、その過程で美しい土木建築物を今に残している。

平成6年には国の重要文化財（近代化遺産）に指定された。

この橋を紹介するために南木曾町が美しいパンフレットを出している。パンフレットの文章を借りて橋の説明をする。

橋としては当時我が国の大土木技術の粋を集めためずらしい4径間の吊橋となっている。3基の主塔はデザインも大変すぐれており、特に中央の塔からは水辺へ降りる石段が設けられている。（以下略）

桃介橋は大正11年9月に、大同電力（福沢桃介社長）が発電所建設の資材運搬路として架けたものである。この付近では最大川幅のところにあり、美しく雄大な景観を誇っている。

この橋は木製補剛桁を持った吊橋としては、日本有数の長大橋であり、（中略）この種の吊

桃介記念館の入り口の横に桃介橋の旧部材を保存展示してある。橋の詳細図も描かれている。門外漢にはさっぱりだったが、土木に通じている人が見れば案外興味深いかもしれない。

（社会交流センター）

7月号で紹介した南木曾町の桃介記念館から歩いて数分のところに桃介橋は架かっている。大正時代の建設と聞いているから、もう朽ち果てているのかと思ったら大違いであった。事実、昭和50年代には廃橋寸前になっていたらしいが、文化財としての価値が高いことから平成になってから保存が図られ、平成5年に美しく復元した。昔の吊り橋ということから受け取る予想とは違って、247メートルの長さで幅も自動車も通れるほどの堂々たる橋であった。景色も美しく、歩いて楽しい橋で、この日も親子連れや蘇南高校の生徒が渡っていた。

# INFORMATION

## 情報処理センター

### 平成10年度後期 センター主催講習会の開催について

前期に引き続き講習会を開催します。

今回の講習会では、前期に開催した「電子メール入門」を継続して開催するとともに、新たに「ネットワークの利用を促進することを目的」とした講習会と、「卒論等の高度なドキュメント作成スキルの育成を目的」とする講習会を新設します。

講習会と講習内容は次のとおりです。

開催日時、場所等詳細は情報処理センターのホームページ  
(<http://www-dit.daido-it.ac.jp/~ipcenter/>)  
または掲示にて確認下さい。

#### 1. 電子メール入門

メール利用できるよう環境を設定し、実習を通して利用方法をマスターする。  
(前期に引き続き開催)

#### 2. 電子メール応用およびニュース

テンプレートの応用、アドレス帳の編集、およびファイル添付を実習する。  
ニュースの閲読と投稿の方法を実習する。

#### 3. ホームページ製作

ホームページの製作および更新について実習する。

#### 4. PCによるレポート作成

雑形をもとに、MS-WordとMS-Excelを使用したレポート作成実習を行う。

MS-Power Pointを簡単に紹介する。  
(2週構成)

## 入試室

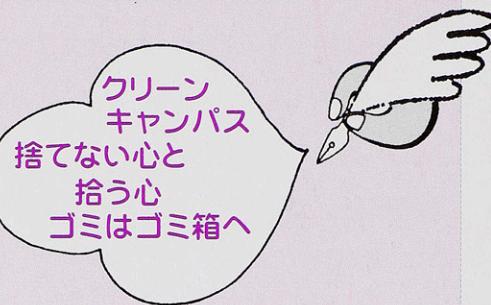
### ZIP-FMで本学CMを放送

ZIP-FMで、本学・昼夜開講制のCMを放送することになりました。

期間:9月28日(月)~12月4日(金)  
時間帯:(平日)午後8時台~10時台  
(土日)午後0時台~5時台

合計32スポット

高校生やご父母の皆さんのが比較的聞き易いゴールデンタイムに入れます。  
皆さん、聞いてね。



## キャンパスカレンダー

### 11月

- 2日(月)「履修状況確認書」配布日
- 8日(日) 学内レガッタ大会
- 9日(月) 就職模擬試験(一般常識)3年次生  
(13日まで)
- 24日(火) 第2回就職ガイダンス 3年次生  
(27日まで)
- 26日(木) 後期学生代表者会議

### 12月

- 1日(火) 就職能力試験(言語・数理)  
3年次生(4日まで)
- 2日(水) 日本育英会返還説明会 4年次生
- 21日(月) 冬期休業開始(1月9日まで)  
後期集中講義(祭日除く25日まで)

### 1月

- 4日(月) スキースクール(9日まで)
- 6日(水) 後期集中講義(8日まで)
- 26日(火) 补講日(30日まで)
- 30日(土) 後期授業最終日

## 学園庶務室

### 平成10年度教育懇談会日程について

後援会主催の教育懇談会の日程は次のとおりです。

学生の豊かなキャンパスライフの支援のためにご父母の出席をお願いします。

地区	月日	会場名
北陸	9.20(日)	ホリデイイン金沢(金沢) ☎ 0762-23-1111
愛知	9.20(日)	ホテルアソシア豊橋(豊橋) ☎ 0532-57-1010
静岡	9.26(土)	グランドホテル浜松(浜松) ☎ 053-452-2111
	9.27(日)	マイホテル竜宮(静岡) ☎ 054-251-1315
中国	10.3(土)	ホテルシルクプラザ(広島) ☎ 082-227-8111
四国	10.4(日)	高松グランドホテル(高松) ☎ 0878-51-5757
近畿	10.11(日)	ホテルグランヴィア大阪(大阪) ☎ 06-344-1235
岐阜	10.11(日)	岐阜キャッスルホテル(岐阜) ☎ 058-266-7111
長野	10.17(土)	ホテルブエナビスタ(松本) ☎ 0263-37-0111
三重	10.17(土)	四日市都ホテル(四日市) ☎ 0593-52-4131
愛知	11.1(日)	名古屋観光ホテル(名古屋) ☎ 052-231-7711

### <教育懇談会の内容>

- ・全体説明 10:30~11:30
- ・個人面談 11:40~13:00
- ・懇親会 13:00~14:30

## 図書館

### 新図書館システム導入決まる。

図書・雑誌の検索が今までよりも使い易くなります。

具体的には次のとおりです。

- ①ホームページを利用して必要な情報提供を行います。
- ②図書館外のネットワーク上のパソコンから図書館のホームページにアクセスして検索する方式を提供します。
- ③検索の操作性を簡単にします。
- ④社会へ開かれた大学図書館を目指します。

◆◆◆更新スケジュール◆◆◆

平成10年10月 ネットワーク機能を利用した検索機能の試行サービスを開始(学内用)します。

平成11年4月 新システムの全面稼働を開始します。

詳細は1月号に掲載します。



## 編集後記

今夏も見えない処で学生諸君が活躍してくれました。

全国を自転車キャラバンで地球温暖化防止を訴えた 小川君。

ロータリークラブの難しい“おじさん”的前でボランティア活動を発表してくれた 山中さん。

地域の七夕祭りを盛り上げるために一役買った学生達。

あまり目立たない。見えて来ないニュースも出来る限り掲載したいと思っています。クラブ活動も華やかな活躍がなくても学生時代の想い出の記録として、誌面の許す限り掲載したいと思っていますので、皆さんのお投稿をお待ちしています。

社会交流センター  
E-mail:pccir@daido-it.ac.jp

大同工業大学ホームページ  
<http://www.daido-it.ac.jp>